

ウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%AF%E8%80%86%E5%9B%BD%E5%BA%...> 2020/02/29

内郭の北方と西方に官衙跡と考えられる建物群が検出されており、北方官衙は東西棟建物6軒と南北棟建物5軒、西方官衙は溝で区画された東西63メートル、南北53メートルの中に東西棟建物5軒と南北棟建物3軒が配置されている。両方とも掘立柱建物である。内郭の建物は、8世紀後半から10世紀の間に4時期の変遷が認められる。

- A期は、8世紀後半。内郭は掘立柱塀によって、東西84メートル、南北94.5メートルに区画される。その中に南から北へ南門、前殿、正殿、後殿を配し、東西に長大な脇殿と、脇殿の南側の楼閣風建物を設けている。建物はすべて掘立柱建物で、左右対称に配置されている。
- B期は、9世紀初頭。正殿、前殿、後殿を同位置に建て替えるとともに、東西脇殿に北側に新規の楼閣風建物を建てている。
- C期は、9世紀中頃。内郭の外周に溝を彫り、内側に築地塀を巡らし、東西84メートル、南北106メートルに区画している。内郭内では前殿をなくし、南門と正殿との間をバラス敷きの舗道にしている。また、南門を除く他の建物を礎石建ちに造り替えている。
- D期は、9世紀末から10世紀初頭。内郭を区画する溝を埋めて、新たに南と西に溝を掘り、東西111メートル、南北126メートルとして規模を拡張している。

外郭内は部分的発掘調査のため、全体は不明である。

出土品

土器類

土師器類が圧倒的に多く、その大半が食器類である。その中に「国」「厨」（くりや）「川村」などの墨書土器が見られる。

瓦類

脇殿周辺と南門周辺から出土し、数もあまり多くない。軒丸瓦、軒平瓦とも4種ある。

その他

硯類、帯金具、石帯、鉄製鋤先などで、八稜鏡（はちりょうきょう）の鋳型が特異なものである。

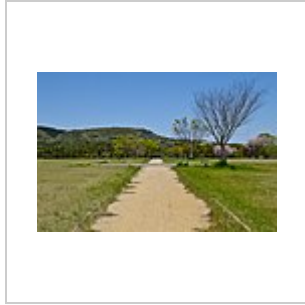
文化財

国の史跡

- 国庁跡（史跡「伯耆国府跡」のうち）

1985年（昭和60年）5月14日に「伯耆国庁跡 附 法華寺畑遺跡」として国の史跡に指定。1998年（平成10年）9月11日に史跡範囲の追加指定^[1]。

2000年（平成12年）9月6日に不入岡遺跡を追加して、指定名称を「伯耆国府跡」に変更^[1]。



法華寺畑遺跡



不入岡遺跡

脚注

- ↑ ^{***a***} ^{***b***} 伯耆国府跡 (<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/2140>) - 国指定文化財等データベース ([文化庁](#))

参考文献

- 真田廣幸「伯耆国庁跡」『図説 日本の史跡 第4巻 古代1』文化庁文化財保護部史跡研究会監修、同朋舎出版、1991年。 ISBN 978-4-8104-0927-7。

関連項目

- [国衙](#)
- [郡衙](#)
- [日本古代の地方官制](#)

外部リンク

- 伯耆国府跡 (<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/2140>) - 国指定文化財等データベース ([文化庁](#))

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=伯耆国庁跡&oldid=72340732>」から取得

最終更新 2019年4月11日 (木) 09:42（日時は**個人設定**で**未設定**ならば**UTC**）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。